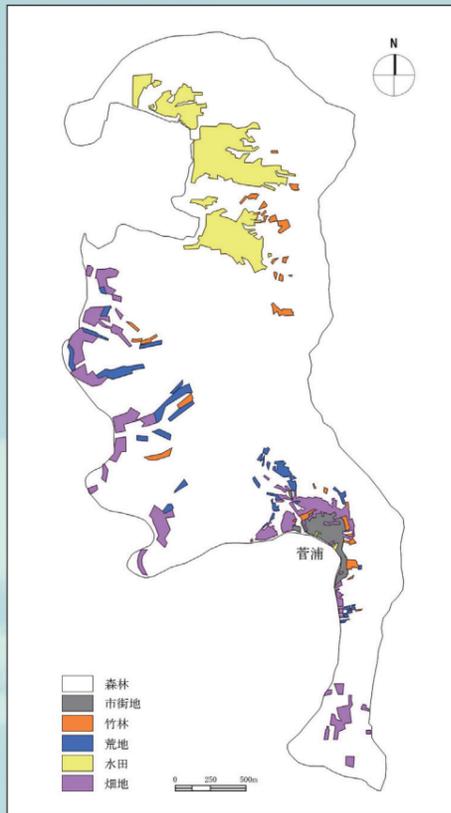
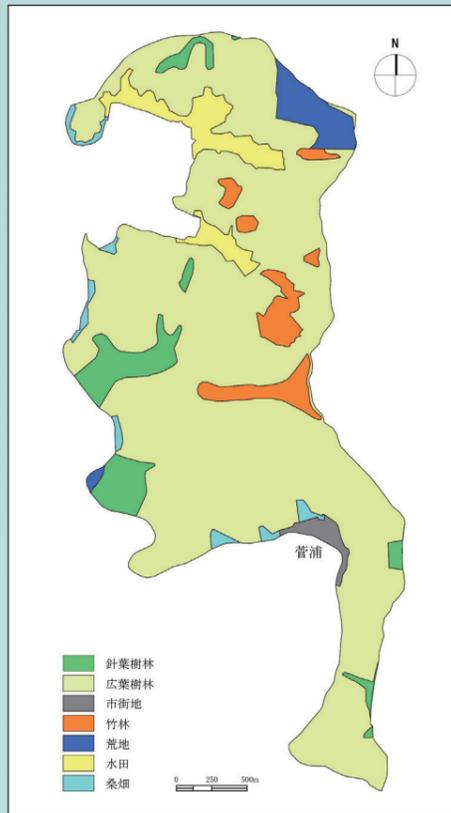


菅浦の自然はどのように変わってきたの？

作図：深町加津枝（京都大学准教授）



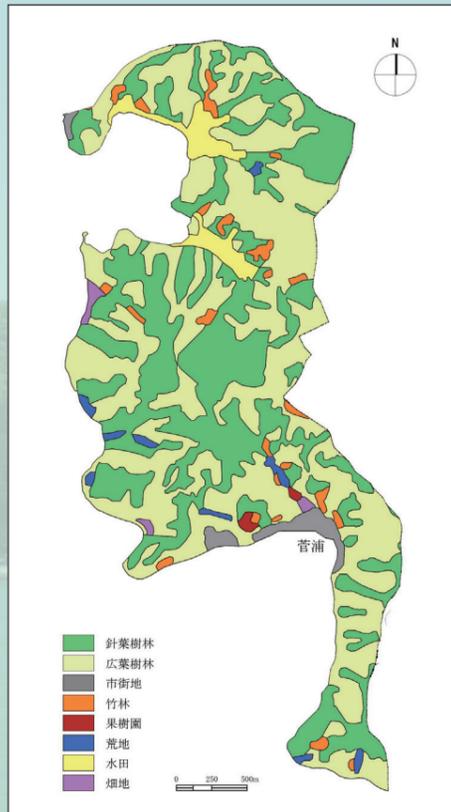
明治初期 水田が現在よりも広くあります。畑地も集落周辺や奥出、葛籠尾崎の山中に点在していました。



明治27年 全国的に養蚕業の盛んだった当時、菅浦でも桑畑をする土地が増えていました。



昭和52年 雑木を燃料にしなくなると、建築用材として価値の高いスギなどを植えるようになり、針葉樹林の拡大が目立ち始めます。



平成18年 竹林と針葉樹林が拡大しています。森林の利用や手入れが少なくなったことが要因の一つです。近年土砂崩れの危険性や獣害が増加しています。

変わりゆく景観

菅浦

文化的景観

滋賀県長浜市西浅井町





1

- ①琵琶湖から望むと菅浦本来の姿が見えます。②エリ漁。琵琶湖独特の漁法です。アユやイサザ、小エビなどが獲れます。
- ③集落背後の段々畑。ミカンなどがつくられますが、近年はシカやサルに食べられたり、イノシシに石積を壊されるなど、獣害が深刻化しています。
- ④ヤンマーの家庭工場。集落内には同じ規格の家庭工場が点在しています。



2



3



4

変わりゆく景観 ~湖と山に抱かれて~

初めて菅浦を訪れたとき、長く続く湖岸道路の先に、忽然と現れた集落に驚く人は多いのではないのでしょうか。琵琶湖と山々に挟まるように立地する集落は、四足門や寺社が点在し独特の雰囲気があります。中世惣村の名残を残す「隠れ里」といわれ

てもどこか納得するのではないのでしょうか。しかし琵琶湖から菅浦を望むと、湖に開かれた大変開放的なムラだと気づきます。かつて湖上交通が主流だった時代、菅浦は背後の山や田畑で得た物資を舟に載せ、長浜や八幡など様々な所へ売りに行きました。

物売って生活をしていたムラですので、その時代時代で売れる作物に作りかえなければなりません。たとえば中世には柑子やビワ、近世になると油実、明治時代では桑、そして昭和にはタバコなど。

集落内に点在するかわいらしいヤンマーの家庭工場も、昭和30年代に化石燃料の普及により林業が衰退するなか、菅浦の人々が懸命に嘆願し誘致されたものです。

景観は人々が懸命に生きてきた証です。菅浦の人々が家とムラを守るために、その時々で決断し、しなやかに生き抜いてきた歴史を景観から感じてください。

日記からみる明治の景観

数年前、菅浦のある家で、明治34・35年に書かれた日記が発見されました。日記によると、当時その家は林業と農業、養蚕業を組み合わせで生計を立てていました。冬は主に薬仕事、3月は木の伐採、4月になるとクヌギなどの植林をおこないました。6月は田植えがおこなわれる一方で、「桑モリ」「蚕上げ」「糸引き」など養蚕業も忙しくなります。7月になると少し落ち着き草取りや害虫駆除、畑仕事が仕事の中心です。10月中旬には油実拾い、10月下旬から11月下旬にかけては稲刈り、稲干し、モミスリがおこなわれました。

当時は成長が速いクヌギを多く出荷していました。山をいくつか分割し一年毎に場所を変えながら伐採・植林を繰り返します。菅浦の山は様々な成長過程の森林や桑畑などがモザイクのようになった景観だったので。

ほかにも、近所づきあいや作物の出荷先、買い物の内容に至るまで日記には克明に書かれ、当時の菅浦の暮らしぶりが明らかになりました。次ページの地図にはその一部を掲載しています。



■水田にはかつて寝泊まりをした小屋が点在しています。



■油実。灯火や油紙などに使われました。



■竹の地蔵



■稲を干すハサ



■葛籠尾崎のハッサク畑

*1 山シユリ：間伐や下草刈りなど山の手入れをする
*2 畑打：畑を耕す

※深町加津枝（京都大学准教授）が作図したものを下図に作成

三月二十三日
竹生嶋「ジャヤリ」取シタリ

四月十八日
父〇〇〇連レ多賀神社へ参詣
長濱買物ニ行キタリ
六月二十五日
長濱行キシテタリ、枇杷代一
月四十銭杉葉七十銭
十月一日
葉ヲ積シ父ト長濱行セリ
實ハ父肩ニ出来物出来シ故
連レ行シナリ

一月二十八日
父上六拾一ノ祝ヲシタリ
餅ヲ沢山春キ祝類知己へ贈レリ
二月一日
葉仕事シタリ
六月十七日
皆々暮上シタリ
六月二十三日
姉妹ハ糸引ヲ初メタリ、
養蚕ハ糸引上ニハアラザリキ
七月二十五日
虫害除祈禱阿弥陀寺ニ於テ
八月十六日
父ハ河振リ普請ナリキ
十月二十八日
父トハサ直シタリ
十一月二十六日
姉妹及〇〇〇等トモミスリシタリ
今年ハ刈舎ニ豊年ナリキ
十一月二十九日
字在村ハサ下シ
十二月二十五日
姉トスス掃シタリ
七月四日
父ト葉積シタリ

四月十日
字コラデニテ桑ノ木植シタリ
六月四日
字コラデニテ妹ト桑モリシタリ
三月九日
字大浦ニテ牛蒡時ヲシタリ
八月一日
妹字大浦ニテ桑モリシタリ
九月二十八日
字大浦ニテ竹伐シセリ
六月十日
字柴出桑モリシタリ
七月二十三日
姉ト柴出へ畑打ナリキ

五月二十六日
父ト田仕事ニ行キタリ、
奥出帰路帆ニテ帰レリ、
大風実ニ愉快ナリキ、
恰矢ヨリモ早シ

四月十二日
父ト字バツタンへ植シタリ
妹ハ字奥出目桑原打ニ行キタリ
四月十二日
字バツタンへ同登ニ行キタリ
姉ハ字ヨノウラ豆植ナリキ
三月二十一日
字内ヨノウラニテ植シタリ、
四時頃帰村シタリ
但帆ニテ走リタルナリ
六月十一日
字ヨノウラへ桑木モリ、
七月五日
父ト字ヨノウラへ芋植ニ行キタリ
十月二十三日
字内ヨノウラへ姉妹同伴
油実式度拾ヒシタリ

五月三十一日
妹ハ字蛇ケニテ芋負シタリ、
奥出へ負上シタリ、
〇〇〇〇ラ鹿ヒタリ、
但エヒナリ、田植初リタリ
六月二十日
俗ニ之ヲサナブルイト云ウ
十二時頃迄ニ田仕事タリ、
七月二十三日
早植ハ大ニ空附ケリ
十月二十九日
字奥出稲刈リニ行キタリ

六月七日
字ハ七坂姉妹田仕事ナリキ、
姉父ハ今夜宿泊スル由ナリ、
六月十八日
姉ハハ七坂草刈り、父等田仕事
二時頃ヨリ〇〇〇〇氏手佐クレタリ、
父大ニ悦ベリ
八月五日
妹トハ七坂田之草取シタリ
十月十六日
姉妹同伴字奥出ハ七坂油実拾ヒシタリ

十一月八日
字奥出山シユリニ
行キタリ

一月十日
一時頃ヨリ上出へ山見ニ行キ
〇〇〇〇家ニテ葉打チシタリ
三月十一日
字植出へ杉ニ行キタリ

十一月二十六日
姉妹及〇〇〇等トモミスリシタリ
今年ハ刈舎ニ豊年ナリキ
十一月二十九日
字在村ハサ下シ
十二月二十五日
姉トスス掃シタリ

長浜・竹生島へ